

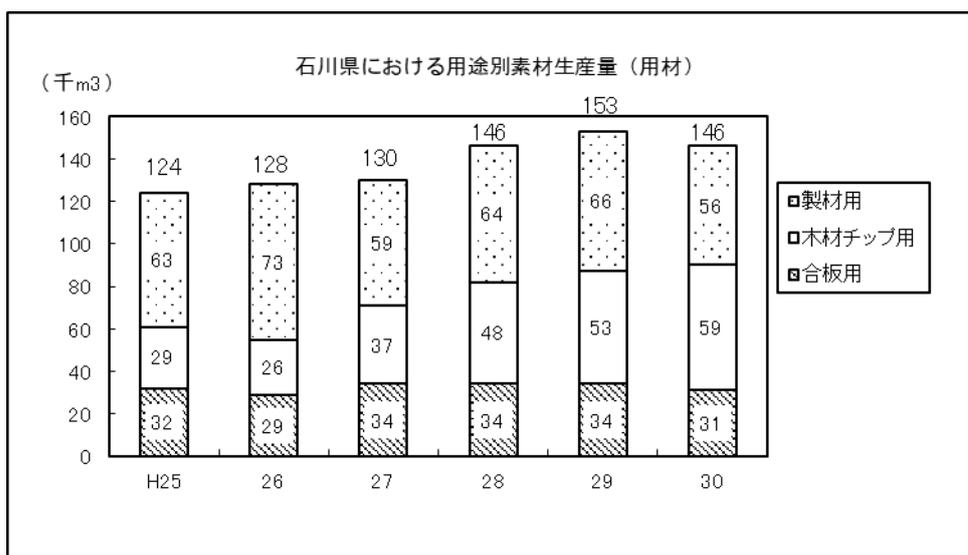
I 石川県における木材の加工流通の概要

1 木材需給の現況

(1) 素材(丸太)

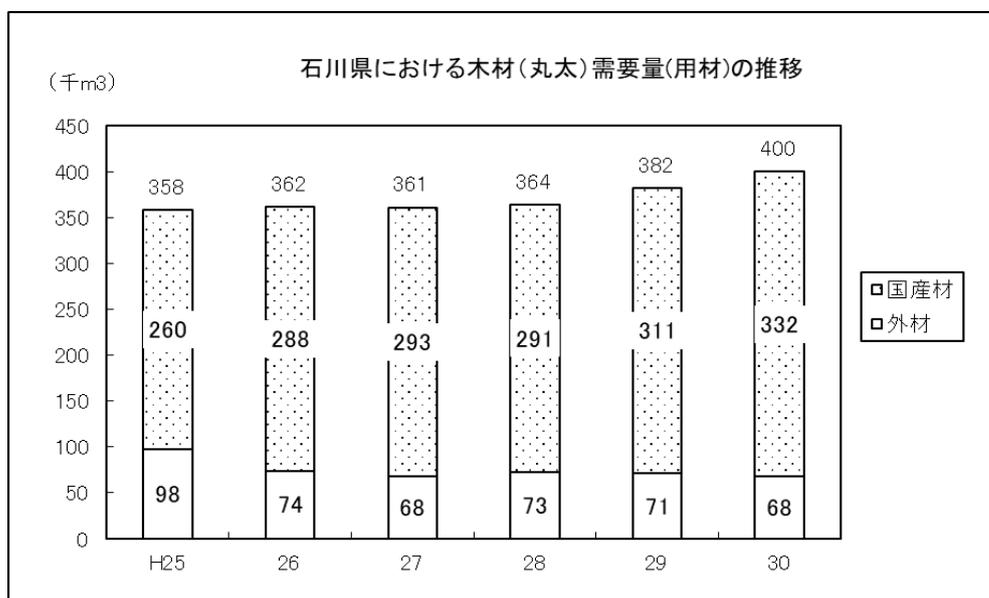
○ 素材生産量は減少 (Ⅱ-2表)

平成30年次の県内素材生産量は146千 m^3 (対前年95.4%)であった。
用途別では、製材用が56千 m^3 (対前年84.8%)、合板用が31千 m^3 (対前年91.2%)、チップ用が59千 m^3 (対前年111.3%)となった。



○ 木材需要量は増加 (Ⅱ-8表)

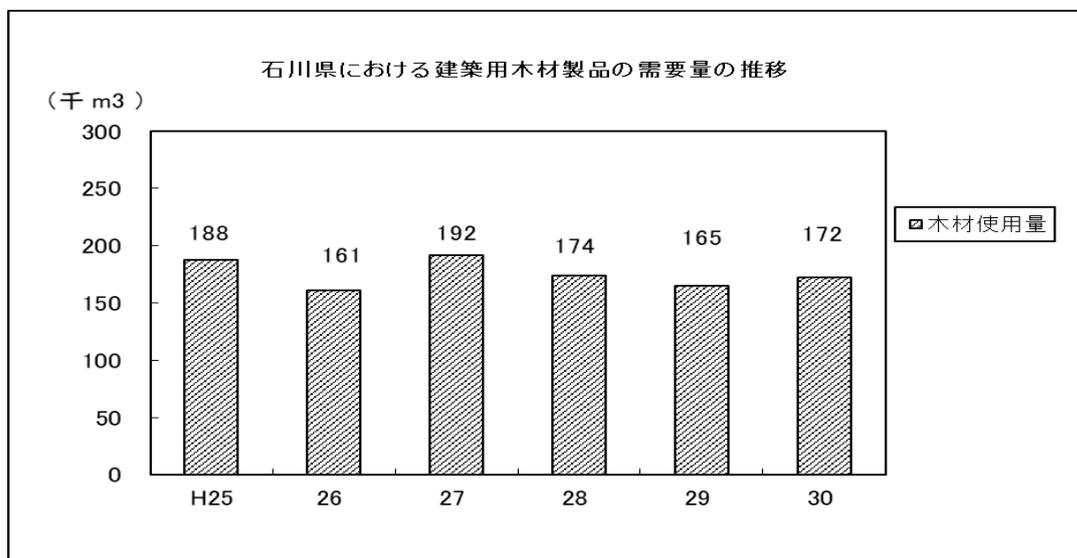
平成30年次の県内木材(丸太)需要量は400千 m^3 (対前年104.7%)となった。内訳は、国産材が332千 m^3 (対前年106.8%)、外材が68千 m^3 (対前年95.8%)であり、国産材の割合は、83.0%(対前年1.6ポイント増)となった。



(2) 製品

○ 建築用木材製品の需要量が増加 (VI-3 表)

平成 30 年次の県内建築物着工床面積は木造 690 千 m^2 (対前年比 100.4%)、非木造 614 千 m^2 (対前年比 117.2%) であったことから、建築用木材製品の需要量 (推計) は 172 千 m^3 (対前年 104.2%) となった。



【推計方法】 木造：着工床面積 (m^2) \times 0.180 (m^3/m^2)

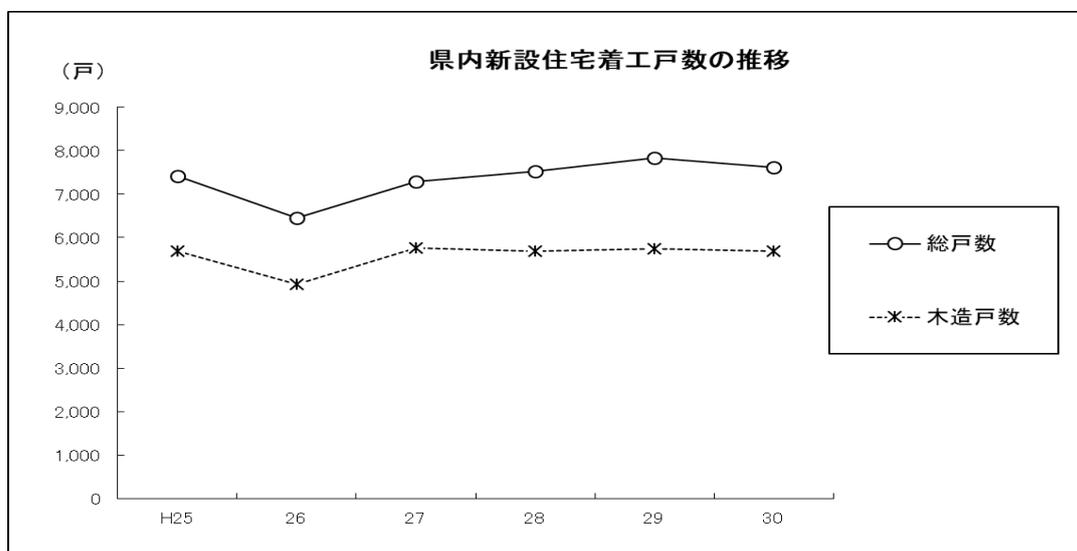
非木造：着工床面積 (m^2) \times 0.078 (m^3/m^2)

(3) 新設住宅着工戸数の推移

○ 新設住宅着工戸数は減少、木造戸数は微減 (VI-1 表)

平成 30 年次の県内新設住宅着工数 7,609 戸 (対前年 97.1%) のうち木造住宅は 5,692 戸 (対前年 99.2%) となった。新設住宅着工数の木造率は 74.8% (対前年 1.6 ポイント増) であった。

着工新設住宅の総床面積は 731 千 m^2 (対前年 97.7%) で、1 戸当たりの平均床面積は 96.1 m^2 (対前年 100.7%) であった。



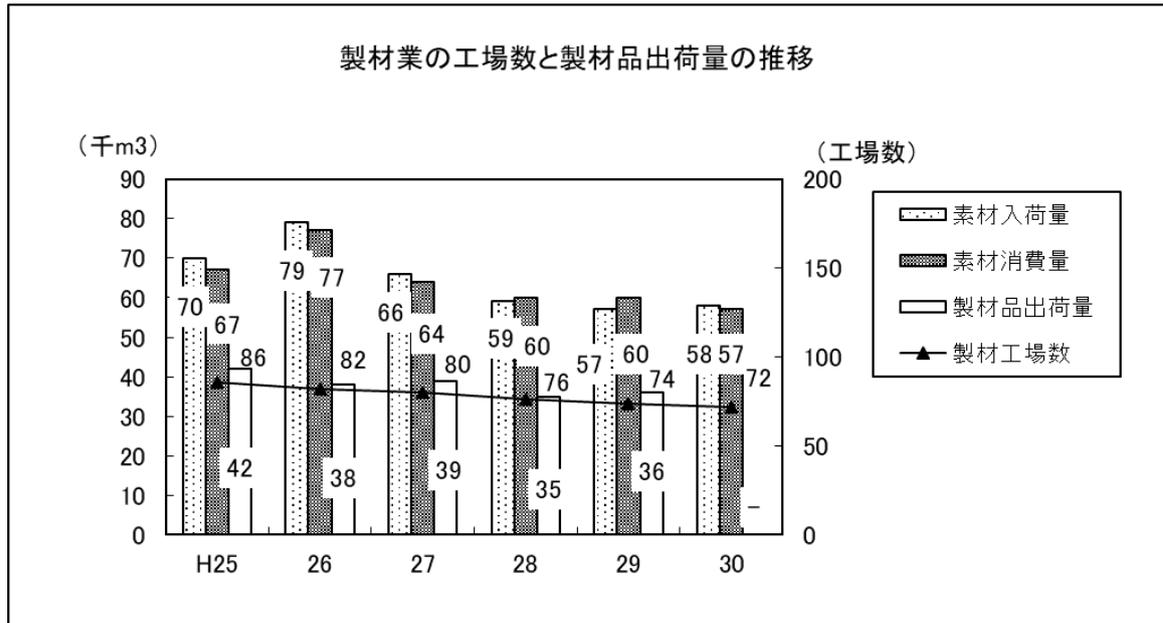
2 木材加工業の現状

(1) 製材業

○ 工場数が減少 (Ⅲ-2表)

平成30年次の県内製材工場数は72工場(対前年2工場減)、素材消費量は57千m³(対前年95.0%)であった。

また、動力の総出力数は、6,552kW(前年比100.7%)であり、1工場当たりの平均出力数は91.0kWであった。

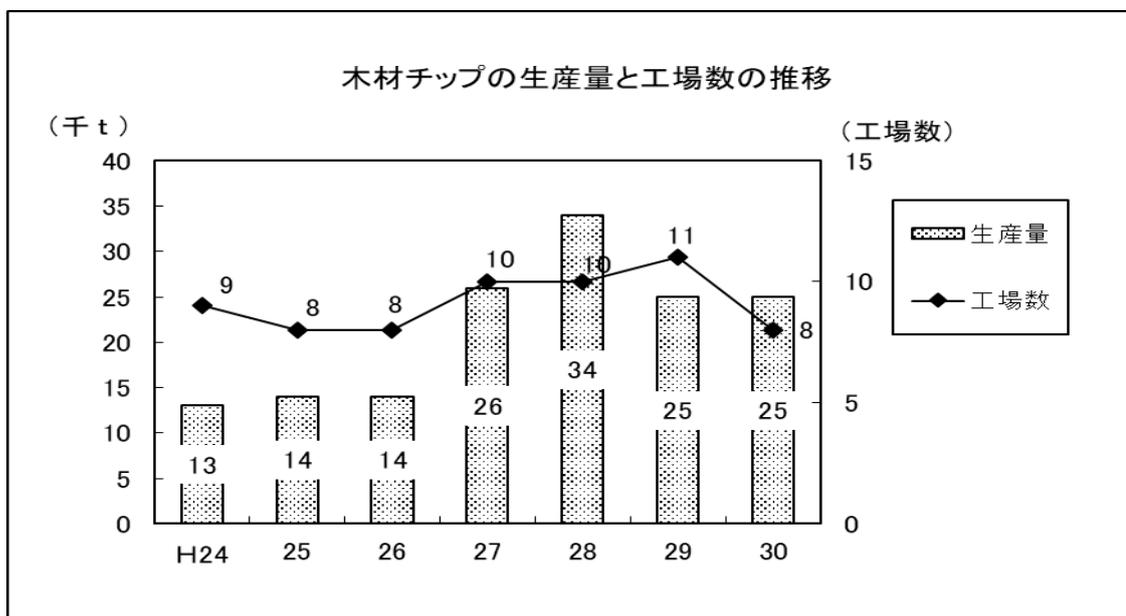


※平成30年調査より、石川県は製材品生産量の総数調査対象外のため省略

(2) 木材チップ工業

○ 工場数が減少 (Ⅲ-6表)

平成30年次の県内木材チップ生産量は、25千t(対前年同)となった。原材料入手区分別では、工場残材がx千t、林地残材がx千t、素材が15千t(対前年同)となった。工場数は8工場(対前年3工場減)であった。



※合板加工業については、1社のみであるため記載を省略

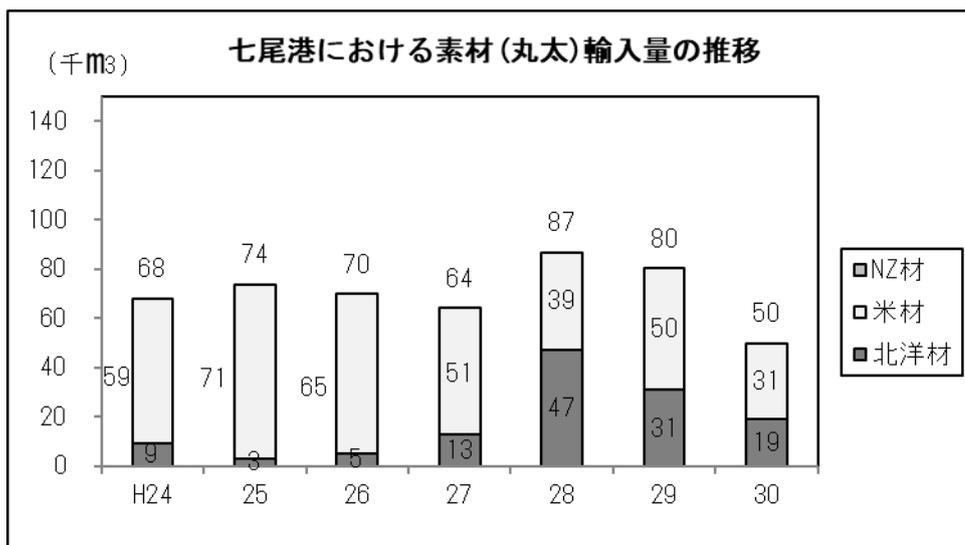
3 木材輸入の動向

(1) 素材(丸太)

○ 輸入量が減少 (IV-1・2表)

平成30年次の県内素材(丸太)輸入総量は49,606m³(対前年61.9%)で、そのすべてが七尾湾への陸上げであった。内訳は、北洋材が19,152m³(対前年62.3%)、米材が30,455m³(対前年61.6%)であった。

北洋材の内訳をみると、カラマツが17,039m³(構成比90.0%)であった。

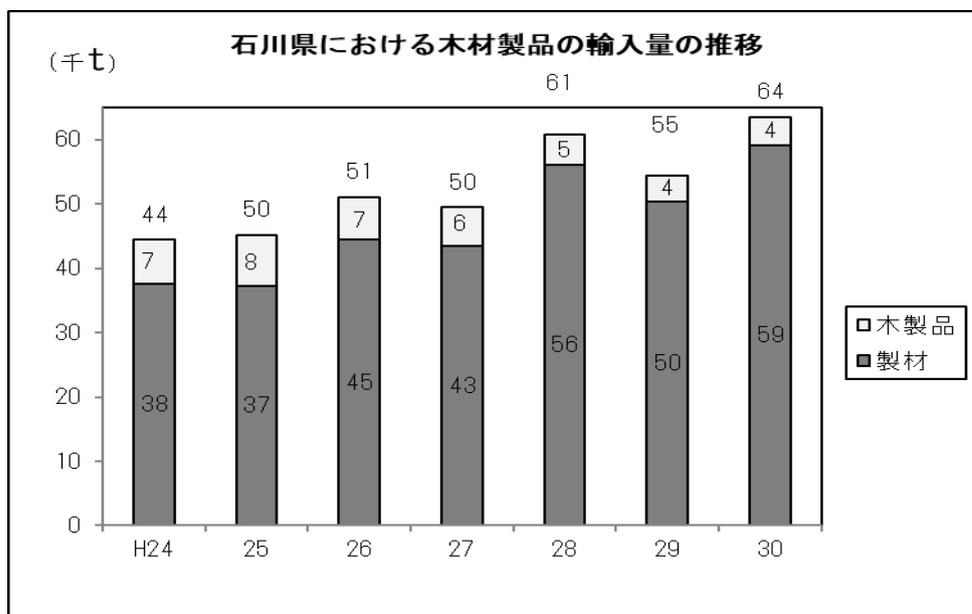


※金沢港における素材(丸太)輸入量は、平成21年次以降なし

(2) 製品 (IV-3・4表)

平成30年次の県内木材製品の輸入総量は63,562t(対前年比116.6%)で、その内訳は製材が59,083t(対前年比117.3%)、木製品が4,479t(対前年比108.9%)であった。

注：木製品は、合板、集成材、建具等を指す。

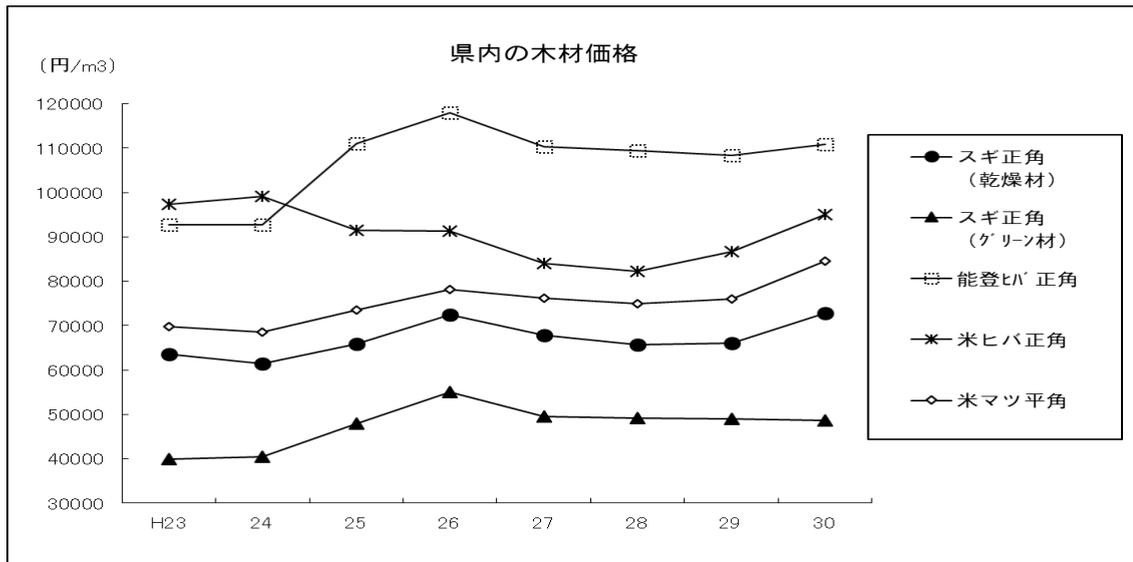


4 木材価格の動向

(1) 製品

○ 製品価格は上昇 (V-2表1)

平成30年次の県内の木材製品価格は、スギ正角(乾燥材) 72,800 円/m³(対前年 6,800 円高)、スギ正角(グリーン材) 48,700 円/m³(対前年 200 円安)、スギ平割 65,800 円/m³(対前年 3,200 円高)、能登ヒバ正角 110,900 円/m³(対前年 2,600 円高) となり、ベイヒバ正角 95,000 円/m³(対前年 8,300 円高)、ベイマツ平角 84,600 円/m³(対前年 8,600 円高) となった。



平成19年5月から価格動向調査の調査項目を一部変更。

注：スギ正角の調査について、乾燥材とグリーン材に分けて調査開始。

(2) 素材(丸太)

○ 原木価格は、米マツが上昇、能登ヒバは下落 (V-2表2)

平成30年次の県内の素材価格は、スギ 11,500 円/m³(対前年 100 円安)、能登ヒバ 16,900 円/m³(対前年 2,100 円安)、北洋カラマツは 24,800 円/m³(対前年同)、ベイマツ 33,000 円/m³(対前年 2,700 円高) となった。

